

## 津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議アドバイザーからのメッセージ



### 日本銀行青森支店 武藤一郎支店長

青森と函館には、1988年8月、中学3年生の夏に友人と旅行に来たことがあります。当時は新幹線が青森や函館まで通っておらず、学生旅行の定番であるJRの「青春18きっぷ」を使って長い時間移動しました。自治省の職員だった友人の父が青森県庁に赴任になり、青森ねぶた祭りを観に来いと誘ってくれました。

濃い赤を基調としたねぶたの迫力と、沿道に溢れる跳人のエネルギーが記憶に残っています（その後、自分がこの祭りの審査員を務めるとは夢にも思いませんでしたが！）。

ちょうどこの年には青函トンネルが開通し、青函博が開催されていて、青森だけでなく函館にも行き、函館の海の幸を味わったのを薄らと覚えています。青函博はどちらかというと青森で盛況でしたが、函館側でも当時、赤レンガ倉庫などウォーターフロント開発や函館山のロープウェイのリニューアルなどが行われ、青森・函館の両サイドで、津軽海峡地域を盛り上げようとの気運がありました。

2022年6月、まさに青天の霹靂という形で青森支店長として赴任することになり、縁があるなと思うと同時に、久しぶりに訪れる津軽海峡地域がその後どうなったのか、観てみたいと思いました。30年以上ぶりに来ると、青森と函館の間には新幹線が通り、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産となるなど、交通・観光が発展していました。青森県内各地はもちろん、函館にも先日訪れましたが、昔の面影も残っている一方で、駅前の街並みや交通が整備されて魅力を増したように感じます。

こうした個人的にも思い入れのある津軽海峡地域が、今後さらに発展してほしいと心から願っています。その点で、ラムダ作戦会議で皆様の熱い議論に参加できるのは望外の喜びです。是非、皆様の斬新なアイデアで、この地域の魅力をどんどん高めていただきたいと思います。

（出典）津軽海峡交流圏ラムダ作戦会議編「ラムダの教科書2」